

単元に係る児童の実態

児童は音楽の学習への関心が高く、歌も楽器の演奏も意欲的に取り組んでいる。前単元では、決められた和音の構成音から旋律をつくり歌に合わせてリコーダーで演奏し、自分とは違う友達の音楽を聴き合う活動を通して音楽づくりの楽しさも経験している。本単元では、言葉を自分たちで選び、リズムを変えたり、音を重ねたりする活動を通して、言葉のリズムの面白さを感じさせていきたい。

単元のゴール

- 拍子やリズムの特徴を感じ取りながら、拍の流れによって表現することができる。
- リズムの組み合わせを工夫したり、反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組みを生かしたりして言葉のリズムアンサンブルをつくることができる。

音楽的な見方・考え方を働かせる活動

音は目に見えずに消えてしまうので、モデル演奏を聴いただけでは音楽の仕組みに気付くことは難しい。そこで、児童とやりとりしながらモデル演奏を板書に可視化して「何か気付くことはないかな。」と問い、基本のリズムを縮小したり拡大したりしていることや、問いと答えや音の重なりなどの音楽の仕組みに気付かせていく。

主体的・対話的で深い学びに向けて

グループで音楽づくりをする際に、互いの考えを共有化するためのワークシートを用意する。グループで相談してつくった音楽を声に出して試したり、さらに工夫して書き直したりすることができるように、本時はラミネート加工したワークシートを活用する。意見を出し合い、何度も試しながら音楽づくりをする活動を通して学び合いを深めていく。

単元計画

◎学習課題	◆各時間終了後の児童の姿
【1時間目】 ◎旋律の特徴や打楽器のリズム伴奏の面白さを感じ取りながら歌う。	◆リズムの特徴を感じ取りながら、拍の流れによって歌うことができる。
【2時間目】 ◎打楽器の音色やリズムの特徴を感じ取って聴く。	◆打楽器の音色やリズムと旋律の重なりが生み出す曲想を感じ取りながら聴く活動ができている。
【3時間目】 ◎歌と打楽器を合わせて、拍の流れによって演奏する。	◆友達の歌声や楽器の音を聴きながら、拍の流れによってリズム伴奏を演奏できる。
【4時間目】(本時) ◎言葉のリズムの面白さを感じ取り、リズムアンサンブルをつくる。	◆言葉のリズムを拡大・縮小したり、反復や変化などを使ったりして、リズムアンサンブルをつくるができている。
【5時間目】 ◎つくったリズムを発表し合ったり、つないで演奏したりする。	◆リズムの特徴を理解して、拍の流れによって、反復や変化などを生かしたリズムアンサンブルをつくっている。
【6時間目】 ◎情景を想像し歌詞の内容や曲想にふさわしい歌い方をする。	◆発声や発音、フレーズに気を付け、歌詞の内容や曲想にふさわしい歌い方で歌っている。
【7時間目】 ◎曲想をつかみ、8分の6拍子の拍の流れを感じ取りながら歌う。	◆8分の6拍子の拍の流れを感じ取りながら、拍の流れによって歌っている。
【8時間目】 ◎拍の流れを感じながら、強弱記号を生かして工夫して歌う。	◆発声や発音、フレーズに気を付け、歌詞の内容や曲想にふさわしい歌い方で歌っている。

授業デザイン (4 / 8)

前時の概要

「いろいろな木の実」は、旋律の特徴や打楽器のリズム伴奏の面白さを感じ取る教材であり、ギロやマラカスを使用し、拍の流れののって演奏する活動を行う。また、音を重ねたり順に演奏したりという活動が、本時のリズムアンサンブルづくりにつながっていく。

一人一人を伸ばす手立て

㉞、㉟、㊱のリズムがスムーズにできる児童には、アンサンブルづくりの時に声の大きさや調子等表現の工夫をするよう声をかける。困難な児童には、どれか一つ自分のできるリズムを選ばせ、そのリズムをアンサンブルづくりに取り入れさせ、グループで協力しながら活動できるようにする。

今後の展開

次時ではグループごとの発表や、つくったリズムアンサンブルをつなげて一つのリズムをつくる活動を行う。また、5～8時間目で扱う教材でも、旋律や拍の流れ(8分の6拍子)を意識して歌うなど、これまで身に付けてきた拍の流れやリズムに対する感覚やそれを表現するための能力をより伸ばしていく。

本時の目標

言葉のリズムやその組み合わせに興味・関心を持ち、友達とリズムアンサンブルをつくる活動に進んで取り組もうとする。

●学習内容 ○学習活動

- 4文字の言葉を集めて言葉のリレーをする。
- 4文字の言葉のリズムを拡大したり縮小したりしたリズムづくり。
- 「おまつり」を例に、4文字の言葉を、㉞縮小したリズム、㉟基本のリズム、㊱拡大したリズムを教師が演奏したものを聴き、リズムの違いを感じ取る。

・指導上の留意点 □評価

- ・ 食べ物や動物など、児童にとって身近な言葉を素材とする。
- ・ 教師の拍打ちに合わせてながら、拍の流れののってリレーをするようにする。
- ・ ㉞、㉞、㊱の順で演奏する。
- ・ 気付いたことを発表させ、㉞は縮小、㊱は拡大されていることを板書き視覚的に分かるようにする。

〔課〕 言葉のリズムを使って、リズムアンサンブルをつくろう。

- 教科書P.17 ㉞の例から、反復、音の重なり、問いと答え、変化の意味を知る。
- 学級全体で2つのパートの分かれ、交替しながら演奏する。
- グループに分かれ、反復、問いと答え、変化を使った8小節のリズムアンサンブルづくり。
- ワークシートに記入しながらグループでリズムアンサンブルをつくる。
- 次時の学習内容を知る。

- ・ 前半は㉞と㉞が問いと答えになっていること、2小節のまとまりになっていること、後半は3つのリズムを組み合わせ変化を付けていることを確認する。
- ・ 何度かくり返し演奏し、4つの方法に慣れる。
- ・ グループごとにラミネート加工したワークシートを配布し何度も試しながら書かせる。
- ・ 4つの方法のうち、2つ以上使うよう指示する。

〔関〕 言葉のリズムやその組み合わせに興味・関心を持ち、友達とリズムアンサンブルをつくる活動に進んで取り組もうとしている。

言葉でリズムアンサンブル

〔課〕 言葉のリズムを使って、リズムアンサンブルをつくろう。

㉞、㉟、㊱
のリズム

P. 16 ㉞の例

P. 17 ㉞の例

- ・ 次時は、各グループがつくったリズムアンサンブルを発表し合ったり、つないで演奏して学級で一つのリズムアンサンブルをつくったりすることを伝える。